

岐阜県武儀郡一帯地区磁硫鉄鉛調査報告

本報告は未利用鉄資源第2輯に発表されている。本調査の範囲は岐阜県武儀郡美濃市・洞戸村・美山村に跨がり下洞戸—出戸の間南北約4km, 東西約3.5kmに及ぶ。本区域内の鉛区は第1表の通りである。なお本地域の鉛山は調査当時いずれも休山中であつた。

本地域はNE-SW~EWに走る頁岩・珪岩・砂岩およびこれらから変質したホルンフェルスと、石灰岩小レンズとからなる古生層およびこれらを貫ぬく石英斑岩・花崗斑岩からなる。

鉛床は、古生層中の接触交代鉛床と脈状鉛床とに分類される。

金城鉛山：下洞戸北西6kmの東洞にある。鉛床は石灰岩と石英斑岩との接触部に胚胎する接触交代鉛床で、坑道は7本以上ある。鉛体は不規則レンズ状で、磁硫鉄鉛はとくに上部に多く最大厚さ4m, 延長25mである。なお、磁硫鉄鉛のほか、閃亜鉛鉛・方鉛鉛・黄銅鉛がとくに濃集している部分がある。

新柿野鉛山：下洞戸北北西約8kmにある。金城鉛山と同型の鉛床で、第一坑内に塊状鉛体が認められるのみ

であるが、露頭の数は多い。磁硫鉄鉛のほか鉛・亜鉛に富む。

相戸鉛山：出戸北北東約2.5kmに位置する。石灰岩と石英斑岩との接触部附近および石灰岩と珪岩の間に胚胎する接触交代鉛床で、主として不規則レンズ状を呈し部分的に脈状を示す。規模は走向延長20m, 最大の厚さ3m, 垂直延長5m内外である。磁硫鉄鉛のほか閃亜鉛鉛・方鉛鉛・黄銅鉛を主とするが、局部的に多量の磁硫鉄鉛の多い部分もある。

矢坪鉛山：美濃市藤生北方約25kmにある。鉛床は前述の鉛床と同様な不規則塊状接触交代鉛床である。佐倉・市泉・牧泉の3鉛床からなるが、これらのうち佐倉がもつとも有望である。閃亜鉛鉛に富み、磁硫鉄鉛・方鉛鉛・黄銅鉛・硫化鉄がこれに次ぐ。鉛体は高さ8m, 長さ10m, 幅3m程度のものが最大で、それ以下の小規模のものが多い。

産出する磁硫鉄鉛の品位は大部分S27~30%, Fe37~41%程度である。

(調査：大塚寅雄・福知義寛・鎌谷 尊, 抄録：岸本)

第 1 表

登録番号	登録年月日	鉛区所在地	鉛 種 名	鉛山名	鉛業者
岐阜探 479	昭和 25. 6.10	武儀郡美山村	金・銀・銅・鉛・亜鉛・硫化鉄	金 城	今岡 正一
” 480	25. 6.10	美山村・洞戸村	金・銀・銅・鉛・亜鉛・硫化鉄・マンガン	”	”
” 492	25.11. 1	” 美山村	金・銅・硫化鉄・銅・亜鉛・鉛	”	”
” 491	25.11. 1	” ”	銅・亜鉛	新柿野	原 政一
” 570	27. 7.14	美 濃 市	銀・銅・鉛・亜鉛	矢 坪	三和鉛業(株)
岐阜試7669	29.12.21	武儀郡美山村	金・銀・銅・鉛・亜鉛・硫化鉄・マンガン・ 鉄・重石・クロム鉄・コバルト・水鉛	相 戸	宮川金三郎

岡山県吹屋地区物理探査報告

昭和30年10月岡山県川上郡成羽町字吹屋地内において電気および磁気探査法による物理探査調査を行った。

調査地は、吹屋部落南西約1kmにある大師山を中心とする約450×450m²の区域で東部および北東部には人次鉛山および片山鉛山の旧坑があり、南方には吉岡鉛業(株)新笹畝鉛業所がある。

調査の結果人次鉛山本坑鉛床附近およびその周辺にお

いて潜在鉛床、あるいは鉛化帯に関係があると思われる示徴を認めた。

また区域西部には南北に延びるスカン帯の分布が推定される示徴を得た。

いずれも今後探査を行ううに留意する必要がある。

(調査：小林 創外5名)